

行田市の古墳

八幡山古墳

関東の石舞台

正面に露出した石室が見える



羨道(前室の入口)には門扉が付いている





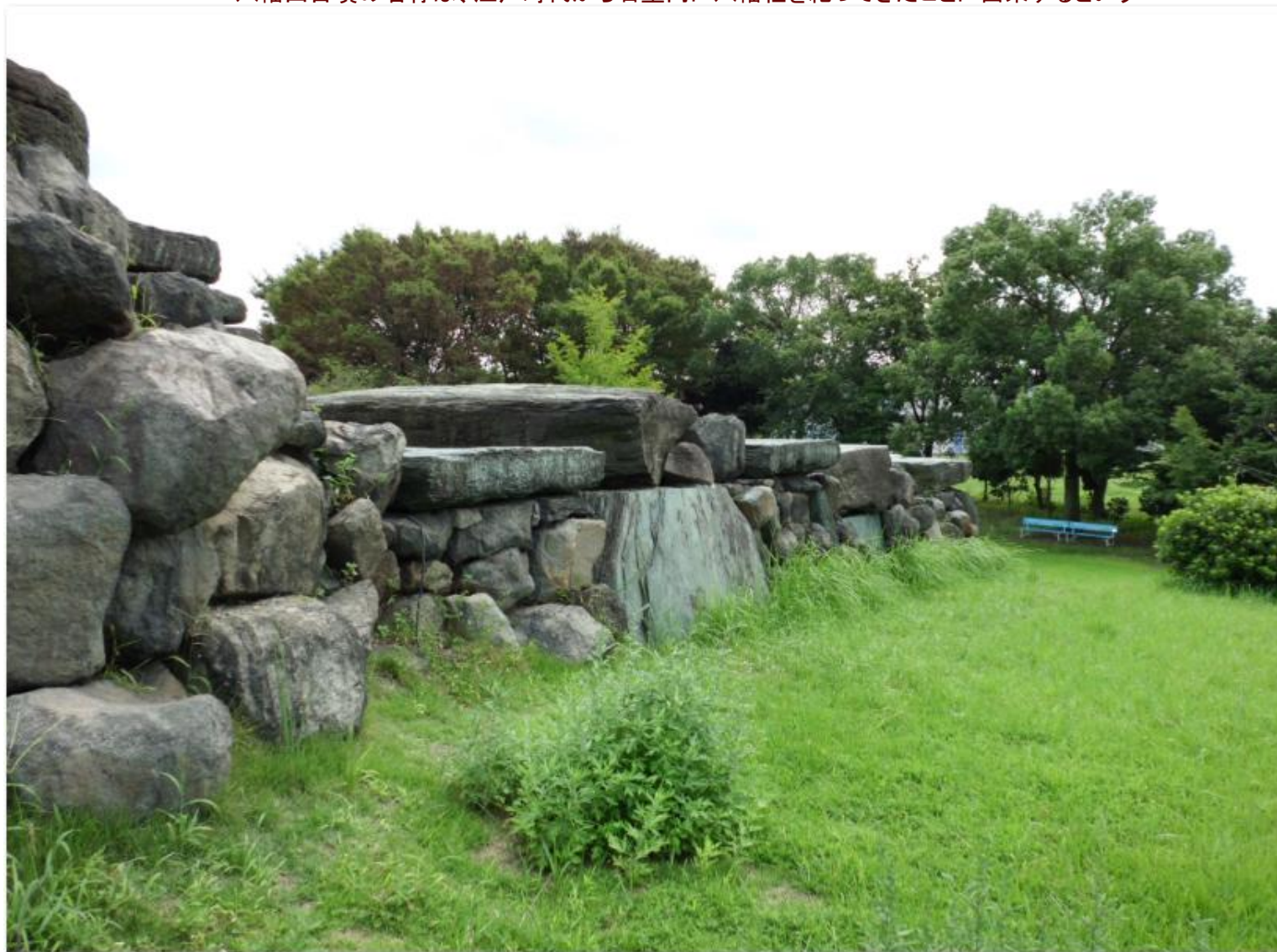
門扉両脇の石は秩父地方から運搬された緑泥片岩







八幡山古墳の名称は、江戸時代から石室内に八幡社を祀ってきたことに由来するという









石室は胴張りで羨道、前室、中室、玄室からなる複室構造という







埼玉県指定史跡

八幡山古墳石室

昭和19年3月31日指定

八幡山古墳は、この周辺に広がる若小玉古墳群の中心となる古墳のひとつで、7世紀前半につくられた直径約80mの大型の円墳と推定されています。

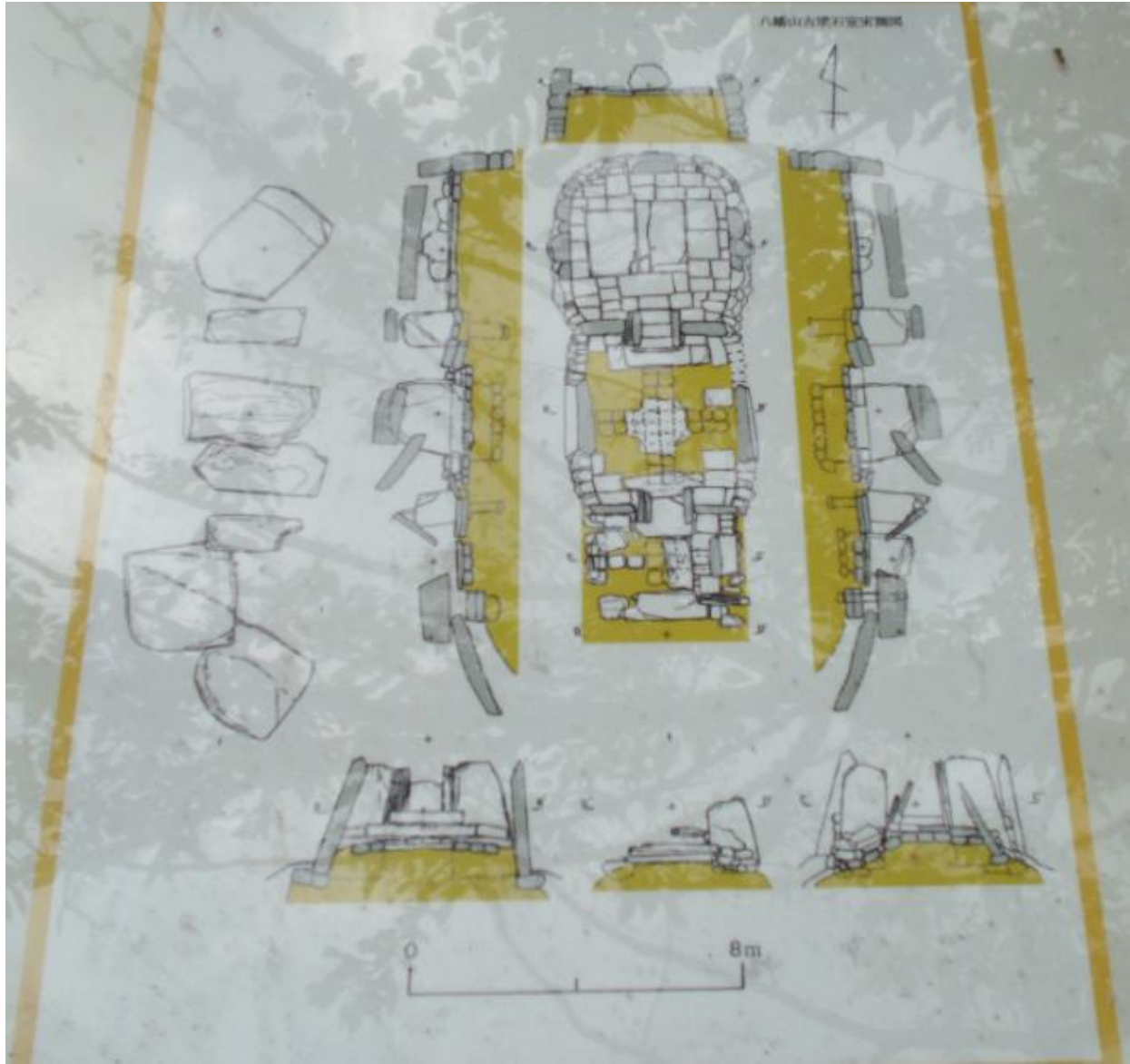
昭和9年に約2km東にあった小針沼埋め立てのために古墳を崩した際に石室が現れ、翌年には発掘調査が行われて、前・中・後室の3室からなる全長16.7mの巨大な石室であることが明らかになりました。その後、昭和52～54年に発掘調査と復元整備が行われて現在の姿になっています。

発掘調査では最高級の棺である漆塗木棺の破片や銅鏡など豪華な遺物が発見されており、この古墳に葬られていた人物がかなりの権力者であったと考えられることから、この古墳を「聖徳太子伝暦」に登場する武蔵国造物部連兄磨の墓と推測する説もあります。

なお、この石室は奈良の石舞台にひびいてくる巨大な石室であることから、「関東の石舞台」とも呼ばれています。

平成21年3月

埼玉県教育委員会
行田市教育委員会



休日には内部が公開されていたのだが、東日本大震災以降全く開かずの間となってしまっているようだ(折角日曜日に行ったのに)









参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/gyoda/hatiman.html>

<http://www.bell.jp/pancho/travel/saitama/hatimanyama%20kofun.htm>

外周を廻ってみる/公園となっている



「県指定 八幡山古墳石室」とある



右端に玄室部分の頭が飛び出ている



中央に玄室部分の頭が飛び出ている/右端は調査隊の車



「さきたま古墳群と史跡散策コース」の看板と石室の頂部が見える



小見真観寺古墳/小見真観寺



←地藏塚古墳

←八幡山古墳

地藏塚古墳

県内唯一、線刻画のある

次は八幡山古墳のすぐ近くにある地藏塚古墳である







石室の形態は胴張りで、奥壁と天井石に緑泥片岩、その他は角閃石安山岩を使用した横穴式石室という



県指定史跡

地藏塚古墳

昭和三十八年三月二十九日指定

この古墳は、若小玉古墳群の一つで、墳頂に地藏堂が安置されていることから、地藏塚古墳と呼ばれています。

墳形は、方墳と思われ、築造時期は、七世紀中葉頃と考えられています。規模は、一辺約二十八メートル、高さ約四・五メートル、周堀幅約一メートル、深さ四十～五十センチメートルです。石室の形態は、胴張りで、奥壁と天井石は緑泥片岩、他は安山岩の切石を用いています。奥壁及び側壁下には、根石が置かれています。遺物としては、石室内から、鉄鏃(矢じり)片や須恵器片が少量出土しています。

この古墳の最大の特徴は、左壁・右壁及び奥壁に線刻画が描かれていることです。烏帽子を被った人物、弓を引いている人物、馬、水鳥、家かと思われるものが描かれています。北武蔵唯一の線刻画として、大変貴重なものと言えます。

平成元年三月

埼玉県教育委員会
行田市教育委員会









墳丘に登ってみる



社殿がある





前方が地藏堂



墳頂に地蔵堂が安置されていることから、地蔵塚古墳と呼ばれているとのこと



境丘を下りる





外周を廻ってみる





地蔵塚古墳石室復元記念碑とある



境丘の社殿





公園となっている







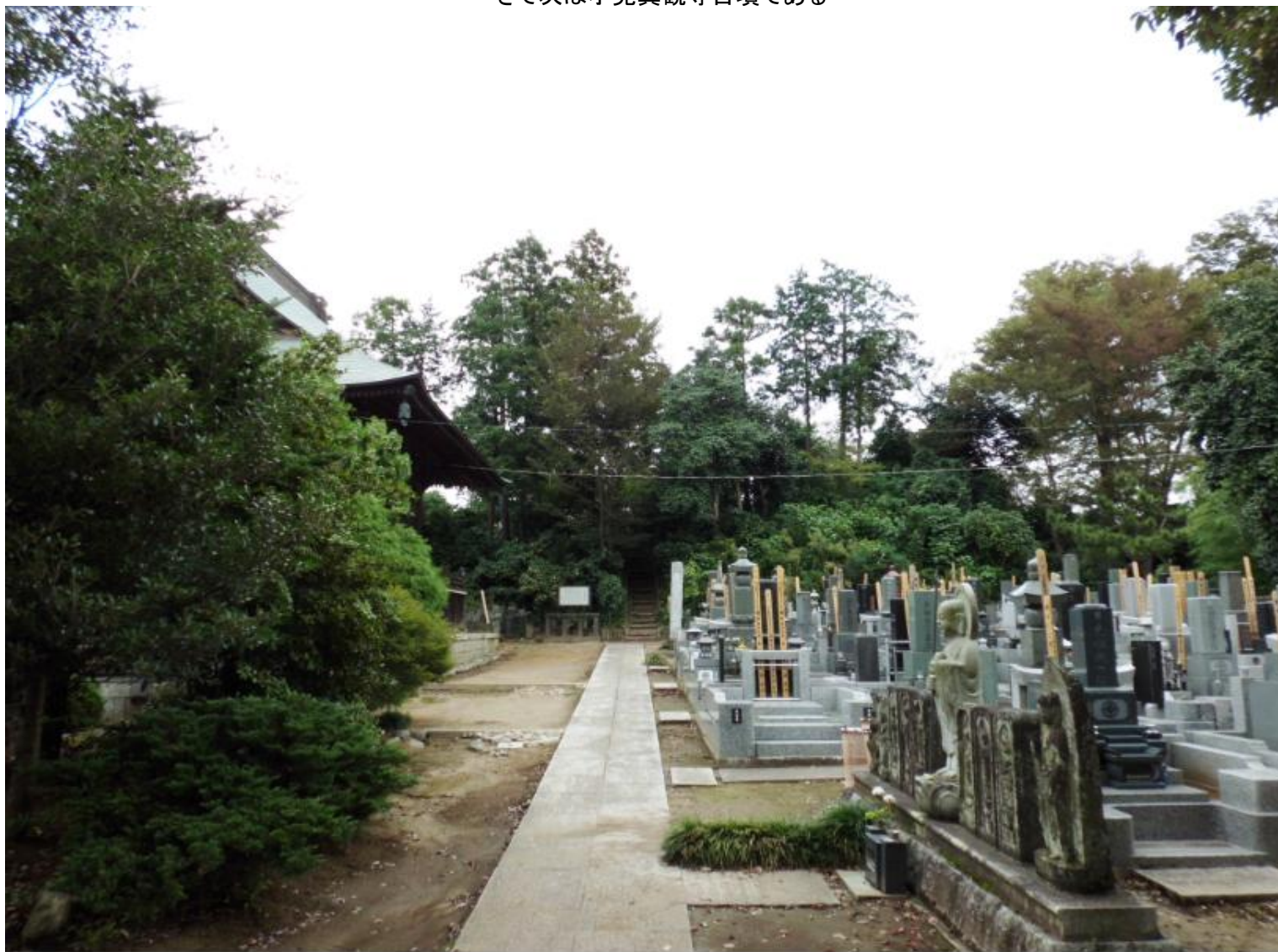




小見真観寺古墳

将軍塚古墳と肩を並べる

さて次は小見真観寺古墳である



正面の小山が古墳である



国指定史跡

おみしんかんじ
小見真観寺古墳

昭和六年三月三十日指定

この古墳は、小見古墳群に属する前方後円墳で、星川の右岸の低台地上に立地している。

現存の墳丘の大きさは、全長百十二メートルである。埋葬施設は後円部と鞍部付近に緑泥片岩の一枚石を組み合わせた二カ所の横穴式石室がある。後円部の石室は寛永十一年（一六四三）に発見され、前・後室よりなっている。

鞍部の石室は、後室のみが現存するが、前室については明らかではない。この石室は明治十三年に発掘調査され、銜角付冑、挂甲小札、鉄鏃、金環、頭稚太刀、圭頭太刀、刀子、蓋付有脚銅鏡等の副葬品が出土している。出土品は、東京国立博物館に收藏・展示されている。

これらの副葬品から、この古墳は七世紀前半に築造されたと考えられるが、鞍部石室はやや遅れて造られた可能性がある。

前方後円墳としては最も新しいものであり、埼玉古墳群に後続する首長墓として重要である。

平成二年三月

埼玉県教育委員会
行田市教育委員会



墳丘に登ってみる



鞍部(前方部と後円部の境の凹んだ箇所)にある一つ目の石室/箱式石室







鞍部右手にある箱式石室

インターネットより

参考ホームページ

<http://www.bell.jp/pancho/travel/saitama/omisinkanji%20kofun.htm>

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/gvoda/omi.html>

<http://www.geocities.jp/fukadasoft/kofun/omi/index.html>

鞍部から方墳部分を見る



墳丘を下りる



前方墳部分方向





後円墳部分方向





前方は二つ目の石室/後円墳部分の横穴式石室















反時計回りに裏手を廻ってみる





後円墳部分







前方墳部分





「史跡 小見真観寺古墳」とある



境内側から前方墳部分を見る





↑
八幡山古墳